

農業総合研究センター かわら版

第35号 平成19年12月27日 発行

山形県農業総合研究センター 研究企画部

〒990-2372 山形市みのりが丘6060-27

電話：023-647-3510

e-mail：nokense@pref.yamagata.jp

研究企画部では、編集に関する皆様からのご意見
ご要望をお待ちしております。

市場価値の高い農産加工品の開発をめざして ～第1回山形県農産加工開発研究協議会～

(農業環境研究部 農産加工開発科)

平成19年11月30日に、農業総合研究センターにおいて、「市場価値のある農産物加工品の開発を目指して」をテーマに、会員や食品関係企業、県関係機関などから85名が参加して協議会が行われました。

まず、「健康、安全・安心時代における農産加工品開発について」と題して、社団法人兵庫県食品産業協会の安全・安心アドバイザーの中川勝也さんが講演し、「ふるさと食品の開発方向では、『旬のもの』を、『作り手の顔が浮かぶ本物』を、そして『その土地の文化が伝わるもの』を消費者に送り届けることが重要」と強調されました。

続いて、中川さんから兵庫県の農産加工品の紹介があり、県内で農産加工品を製造・販売している4名のみなさんからはご自身の加工品や活動についての紹介や今後の取り組み等についての話題提供がありました。

会場では、農産加工品の展示と試食も行われ、参加者からは製造工程や販売方法など活発な情報交換が行われました。



講演を聞く参加者



情報交流のまよう

海外技術研修員 沢谷パトリアさんの花き栽培技術研修

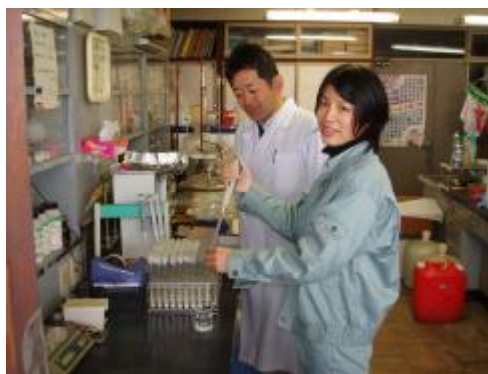
(農業生産技術試験場 野菜・花き研究科)

沢谷さんは、アルゼンチンの山形県人会からの推薦を受けて、8月から1月末までの予定で、会場において花きの技術研修に取り組んでいます。

研修内容は二つあり、各専門分野の担当者がサポートしています。一つは「パンジーなど花壇用苗物の培養土組成の改善」、もう一つは、「スパティフィラムなど観葉植物の培養苗の増殖技術」です。

花壇用苗物の培養土では、アルゼンチンでリサイクルが進んでいる牛糞堆肥のポット用土への混合割合の上限について、苗の生育調査と化学分析を行いながら解析を進めています。また、観葉植物の培養苗の増殖技術では、材料の調整・滅菌方法、培地の栄養・植物ホルモン濃度と培養環境条件について、バクテリア汚染に悪戦苦闘しながら、繰り返し分離増殖を行っています。

沢谷さん自身は、本国では、花壇用苗物 2 ha、観葉植物 1 2 ha を経営する沢谷農場の副社長を務めています。山形の冬の寒さに驚きながらも、技術研修の成果を経営改善に迅速に応用したいと意欲的に過ごしています。



研修に励むパトリスアさん

果樹関係研究成績検討会を開催！

(農業生産技術試験場)

12月18日、19日の2日間、果樹関係研究成績検討会が農業生産技術試験場で開催されました。

この検討会は、果樹の研究成果を一早く生産者や関係機関に県・普及課等を通じて伝えることと、国・独立行政法人研究機関の検討に対応して提出することを目的に、1月ならびに2月の検討会に加えて、今回、新たな試みとして開催したものです。

検討会では研究担当者と県行政・普及等の関係者が60名近く出席し、熱心な報告と質疑を繰り広げました。

育種、バイオテクノロジー、栽培、病虫害防除、土壌肥料の各分野から合わせて70課題が検討された結果、8件の研究成果情報を採択し果樹振興に役立てることとなりました。

